

# 市の家計簿

市民の皆さまからの税金等が昨年度どのように使われたか、令和元年度決算報告、令和元年度決算より算定した健全化判断比率、令和2年度上半期業務状況（企業会計）、職員給与・定員状況を掲載します。

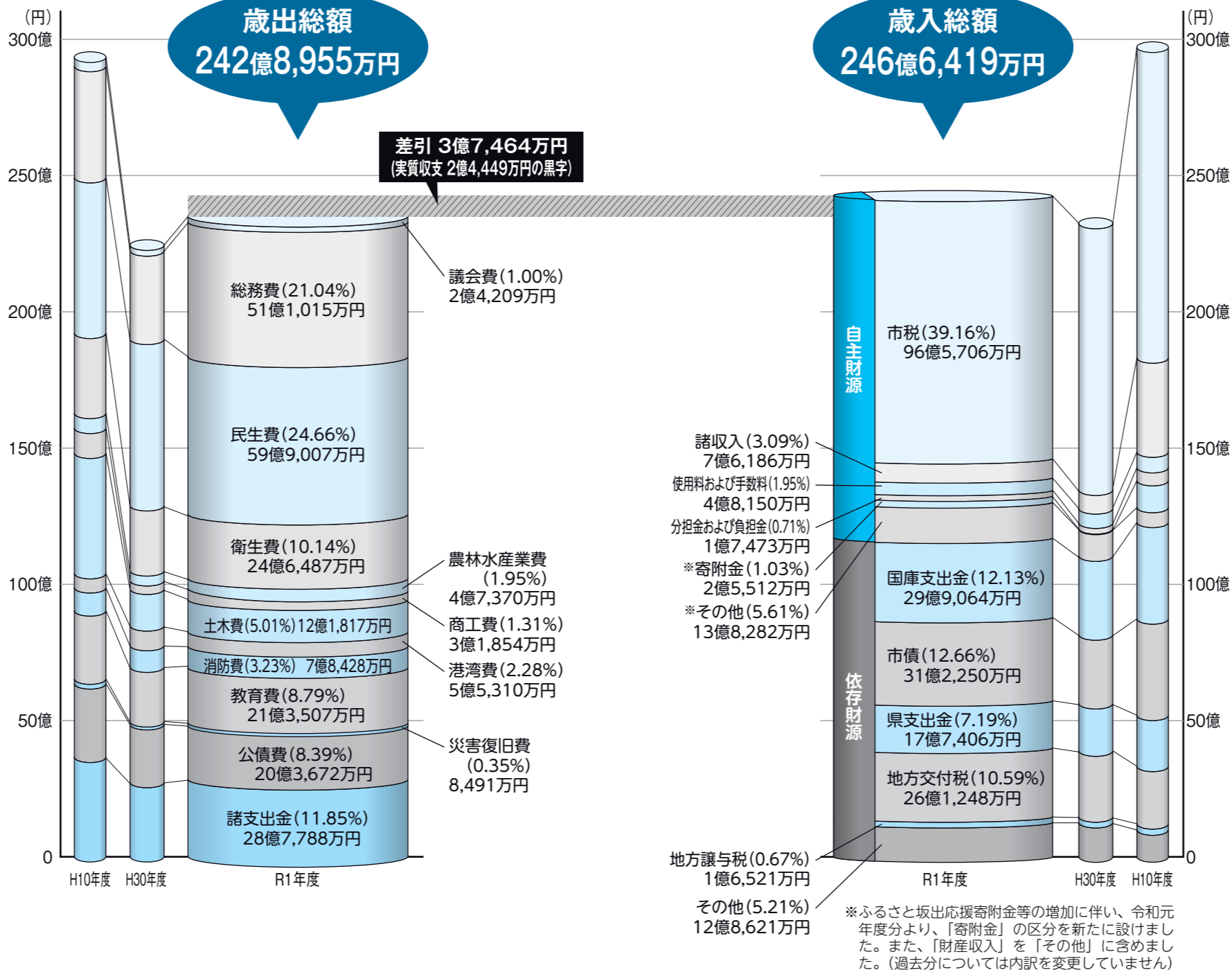
## 令和元年度決算報告

### 一般会計

#### 防災対策・人口増対策に重点

市税を主な財源として、学校、道路などの建設・整備をはじめ、福祉、消防、教育など市の行政運営の基本的な経費を計上した会計です。令和元年度決算については、市税は減少したものの、市債や地方交付税、ふるさと納税を主とする寄附金の増加により、歳入は前年度に引き続き増加しています。歳出についても、庁舎建設事業費や府中湖競技場トレーニングセンター整備事業費の増加により、前年度に引き続き増加しています。

令和元年度の歳入は246億6,419万円、歳出は242億8,955万円で、差し引き3億7,464万円となり、この中には翌年度へ繰り越した事業の財源1億3,015万円が含まれていることから、実質収支は2億4,449万円の黒字決算となっています。



令和元年度中に  
市民1人あたりに使われた金額  
(人口52,563人(令和2年4月1日現在)で算出)

**462,104円** (↑)  
(431,441円)

費目ごとに見てみると...

総務費	97,220円 (↑) (65,740円)
民生費	113,960円 (↑) (111,557円)
衛生費	46,894円 (↑) (45,586円)
土木費	23,175円 (↓) (26,232円)
教育費	40,619円 (↑) (38,241円)
公債費	38,748円 (↓) (39,650円)
その他 (諸支出金、消防費、商工費など)	101,488円 (↓) (104,435円)

○内の矢印は平成30年度決算と比較した増減を表しています。  
( )内の数字は平成30年度決算。

### 用語解説

#### 歳入

**自主財源** 市町村が自らの手で徴収または収納できる財源

**依存財源** 国や県から交付されたり割り当てられるものなど

**市税** 市民税、固定資産税、軽自動車税など

**市債** 道路や学校などを整備するために借り入れたお金

**国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税** 国や県から交付されるお金

**その他(自主財源)** 利子割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得税交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金、交通安全対策特別交付金、地方特例交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、環境性能割交付金

#### 歳出

**議会費** 議会の運営など

**総務費** 総務、企画、財務、国際交流など

**民生費** 児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉など

**衛生費** 検診、予防接種、環境保全、墓地整備など

**農林水産業費** 農業、水産業の振興

**商工費** 商工業、観光振興、消費者や労働者の対策など

**土木費** 道路や公園、住宅の整備など

**港湾費** 港湾や漁港施設などの建設、維持管理

**消防費** 消火、救急活動、防災対策など

**教育費** 学校、公民館、図書館等、教育施設の維持、整備など

**災害復旧費** 災害復旧に要する経費

**公債費** 施設整備などの借入金の返済

**諸支出金** 過年度支出、特別会計繰出金など

本市におきましては、今後とも行財政改革を積極的に推進し、限られた財源の中で「最少の経費で最大の効果」があげられるよう効率的な市政運営を進めていきます。



特別会計

特定の歳入をもって特定の事業を行う場合など、他の会計と区分して経理する必要のある場合に、法律や条例に基づいて設置しているものです。令和元年度の9の特別会計の決算状況は、次のとおりです。

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	64億5,413万円	64億5,017万円
与島診療所	667万円	667万円
港湾整備事業	1億2,120万円	1,012万円
王越診療所	1,057万円	1,057万円
下水道事業	15億6,274万円	16億2,264万円
坂出駅北口地下駐車場事業	1億102万円	1億102万円
介護保険	58億9,027万円	58億254万円
介護保険介護予防支援	6,055万円	6,055万円
後期高齢者医療	9億1,804万円	9億1,605万円

Q 坂出市の財政状況は？  
～令和元年度決算により算定した健全化判断比率等について～

平成19年6月に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が制定されました。この法律は、健全化判断比率等の財政指標を設け、その比率に応じて早期（経営）健全化基準（イエローカード）と財政再生基準（レッドカード）が定められています。平成20年度（平成19年度決算）から健全化判断比率等を公表し、平成21年度（平成20年度決算）からは、健全化判断比率等のうちいずれかが基準以上の場合は、財政健全化計画等の策定が義務付けられています。本市の健全化判断比率と資金不足比率は、下表のとおりすべて基準を下回り、本市の財政状況が「健全段階」であることを示す結果となりました。今後とも、行財政改革実施計画を着実に実行し、効率的な財政運営を行ってまいります。

**健全化判断比率** 本市の健全化判断比率は、すべて基準を下回りました。

(単位 %)

健全化判断比率	令和元年度決算	早期健全化基準	財政再生基準	用語の説明
実質赤字比率	- (▲1.79)	12.91	20.00	一般会計等の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合(財政運営の深刻度を示す)
連結実質赤字比率	- (▲36.87)	17.91	30.00	全会計の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合(地方公共団体全体としての運営の深刻度を示す)
実質公債費比率	10.5	25.0	35.0	一般会計等の実質的な借入金の返済額の標準的な収入に対する割合(資金繰りの危険度を示す)
将来負担比率	86.6	350.0		一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の残高の標準的な収入に対する割合(将来負担の程度を示す)

**資金不足比率** 本市の資金不足比率は、全特別会計において、基準を下回りました。


(単位 %)

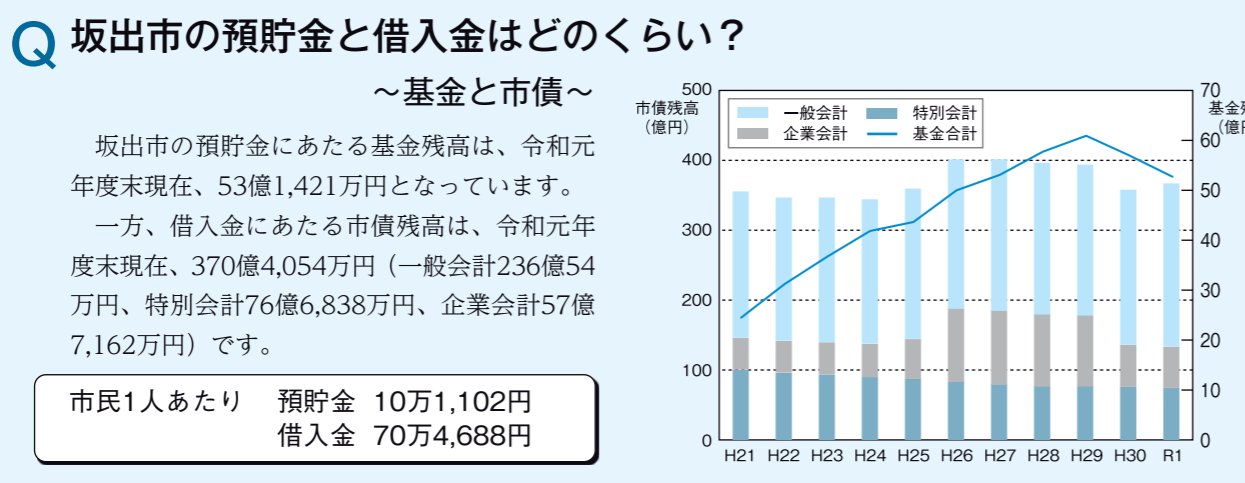
特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
病院事業	-(▲81.7)	20.0
下水道事業	-	
坂出港湾整備事業	-(▲533.3)	

※比率が算定されない場合は「-」で表示し、参考に黒字(資金剰余)の比率を「▲」で表示しています。

**資金不足比率とは**

各公営企業の資金不足額の事業規模に対する割合で経営状況の深刻度を示します。





企業会計

民間の会社のように、その事業の収入で支出をまかなう。独立採算事業で本市では下水道事業と病院事業があまり

**下水道事業**  
令和2年4月より、地方公営企業法の財務規定等を適用しております。令和2年度上半期の業務実績は、有収水量1,034,374m<sup>3</sup>（前年度比2.9%増）となりました。また、事業収支の状況は、営業収益が2億3,258万円、営業費用が3億6,783万円、これに営業外収支などを加えると、収支0円となっております。これからも、公共用水域の水質保全、生活環境の改善および浸水の防除を図り、快適な住民生活に寄与していきます。

**貸借対照表 (令和2年9月30日)**

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	142億1,249万円	固定負債	69億4,395万円
流動資産	6億909万円	流動負債	9億7,722万円
		繰延収益	54億9,169万円
		資本金	12億3,564万円
		資本剰余金	1億7,308万円
合計	148億2,158万円	合計	148億2,158万円

**損益計算書 (令和2年4月1日～9月30日)**

費用の部		収益の部	
営業費用	3億6,783万円	営業収益	2億3,258万円
営業外費用	4,976万円	営業外収益	1億8,821万円
特別損失	320万円	特別利益	0万円
当年度純利益	0万円		
合計	4億2,079万円	合計	4億2,079万円

延べ有収水量 上半期 1,034,374m<sup>3</sup> 前年度上半期 1,004,970m<sup>3</sup>

**病院事業**  
令和元年度では、地方公営企業法全部適用となり医療職の採用方法の見直しを行いました。また、医療機能および療養環境の向上を図るため、医療機器などの更新や購入を行うとともに、第二種感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症の対応にあたりました。令和元年度の業務実績は、入院患者55,840人、外来患者147,498人で、入院患者は前年度に比べて1,693人増、外来患者は4,268人減となりました。また、事業収支の状況は、医業収益が55億1,831万円（4.7%増）、医業費用が56億2,996万円（4.8%増）で、これに医業外収支などを加えますと、1,006万円の純利益となりました。

**貸借対照表 (令和2年9月30日)**

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	61億5,698万円	固定負債	62億589万円
流動資産	45億536万円	流動負債	5億5,216万円
		繰延収益	9億928万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	9億9,460万円
		評価差額等	▲1,943万円
合計	106億6,234万円	合計	106億6,234万円

**損益計算書 (令和2年4月1日～9月30日)**

費用の部		収益の部	
医業費用	26億6,806万円	医業収益	25億6,697万円
医業外費用	1億4,712万円	医業外収益	8,081万円
特別損失	476万円	特別利益	759万円
		当年度純損失	1億6,457万円
合計	28億1,994万円	合計	28億1,994万円

令和元年度決算状況(企業会計)  
平成26年度より新地方公営企業会計基準を適用しています。

**病院事業**

**貸借対照表 (令和2年3月31日)**

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	62億2,096万円	固定負債	62億1,018万円
流動資産	50億1,560万円	流動負債	8億6,539万円
		繰延収益	9億8,372万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	11億5,917万円
		評価差額等	△174万円
合計	112億3,656万円	合計	112億3,656万円

**損益計算書 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)**

費用の部		収益の部	
医業費用	56億2,996万円	医業収益	55億1,831万円
医業外費用	2億9,265万円	医業外収益	3億5,449万円
特別損失	664万円	特別利益	6,651万円
当年度純利益	1,006万円		
合計	59億3,931万円	合計	59億3,931万円

延べ患者数 入院 55,840人 外来 147,498人